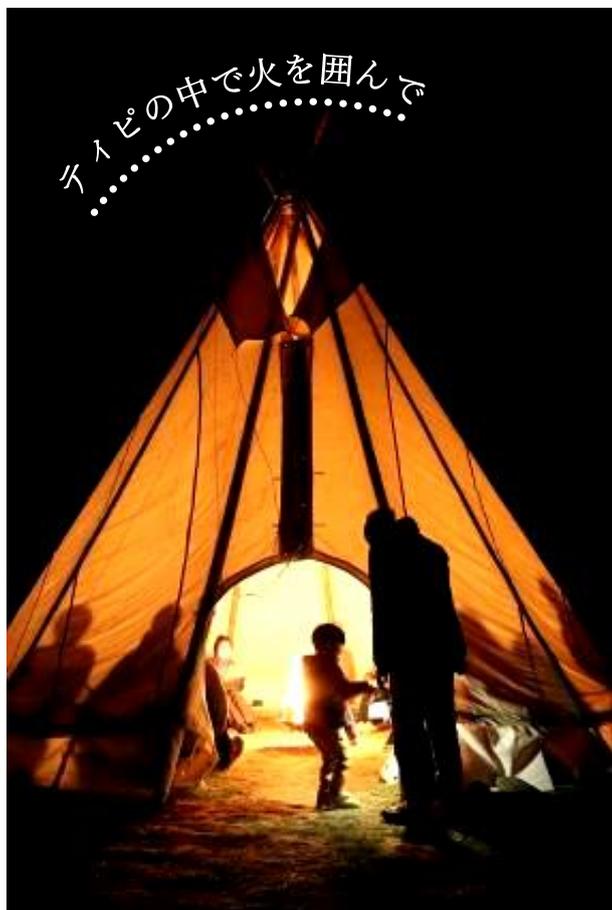


／ おごおりのまつりを考える ／

開催  
レポート

# ナイトトーク

第1回



アフターコロナのイベントについて話し合った「おごおりのまつりを考えるナイトトーク」。

第1回は、「コドモディスコ」「寺子屋」など、さまざまなイベントを手がける廣瀬カナエさんをゲストに迎え、活動への思いなどをお聞きしました。

廣瀬さんから

特定の誰かに手紙を書くように。

知らない誰かを楽しませようとする、どうしてもブレてしまう。自分の身近な人、大切な人を楽しんでほしいと思ってイベントを企画しています。

大事にしているのは、編集の目線。

イベント全体を、「この人に演奏してほしいな」「あの人を呼んだら絶対楽しいな」と編集するような気持ちで組み立てています。

想像できない組み合わせが◎。

当たり前のも同士を組み合わせても、当たり前ものしか生まれない。「その組み合わせ？！」とお客さんを驚かせることができればこっちのもの。



参加者から

地元で昔からあるものは大事にしたいな。

コンテンツはそれぞれ異なっても、同じ方向を向いている人が集まればできるんだなと思った。ということは、誰にでも発想のチャンスはありそう！

コロナで気が沈んでいたけど、また頑張ろうと思えた！



加地市長から



- ・イベントは参加する人だけのものではなくて、企画・運営する人たちも主役。みんなにとっての居場所なんです。
- ・一見かけ離れたものをかけ合わせる。すごくクリエイティブ！